

小学校 国語

文と文をつなげる、分ける

児童質問紙に見られる本県の状況

「学校図書館・室や地域の図書館に週1回以上行く」 11.7 / 20.5 (兵庫県 / 全国)(%)

「分かりやすい文章を書くため、2つ以上の文を1つにまとめて書いたり、1つの長い文を2つに書き分けたりする」 54.0 / 57.6

文の長さを工夫しているのは約半数

課題が見られた問題 < A知識 3 二(1) > (書くこと: 短答式)

【問題】
 主語に注目して二つの内容に分けて書き直す。
 つなぎ言葉には、「だから」を使う。
 一つ目の文の終わりの七文字と二つ目の文の「だから」に続く七文字を教える。
 新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。
 新しく委員になった五年生は、(中略)。
 だから、(中略)。
 教えてあげたいと思った。

【要因分析】
 ・文と文との内容のつながりを理解できにくいことがあるのではないかと。
 ・主語が複数存在する一文を、接続語によって2つ以上の文に分けることに慣れていないのではないかと。
【課題】
 ・文と文とのつながりが分かりにくいこと。
 ・日常的に、「短い文を重ねて文章を書く」ことに接していないこと。

【解答の状況】(兵庫県 / 全国)
 正答率 22.9 / 23.4 無解答率 10.5 / 10.3
 正答「そうにしていた。(だから) ぼくは、これま」
 < 誤答例 >
 2つの内容に分けて書き直す箇所については理解しているものの、文末を終止形に書き直していない。 66.6 / 66.3
 「不安そうにして。(だから、) ぼくは、これま」

授業改善の取組

短く書く
 「1つの内容を1つの文に簡潔に書く。」「2つ以上の内容が含まれた文を、主語に応じて2つ以上の文に分ける。」といった学習を繰り返すことが大切である。
 学習指導要領の指導事項
 第1・2学年「主語と述語との関係」
 第3・4学年「指示語や接続語の役割」
 第5・6学年「文や文章の構成」
 を重点的に指導することが大切である。

読書の時間・内容を確保する
 1ヶ月間、あるいは1学期間に1週間と期間を設定し、教師も含め全員が読書をする時間を保証する。内容の保証という観点から、その学年に応じた本を学校図書館・室から選んで児童に与える。曜日を決めて、教師が読み聞かせをするのも有効である。
 < 参考 > 読書活動推進事業「実践事例のまとめ」
<http://www.hyogo-c.ed.jp/gimu-bo/tosyokan/H25suisin/domatome.pdf>

例えば...

短作文
 他教科においても、授業中に文章(心情、理由、授業の感想等)を書く機会に、短文を重ねて書くという条件をつける。その際、必ず接続語を使用するように指導する。

接続語の指導
 左欄の指導事項が該当学年で達成されていない場合は、次学年において繰り返し指導することも視野に入れ、実態に応じた接続語の指導をする。

日記指導
 日記指導の時間を確保する。一文が長い場合や文のねじれがみられる場合は、短文に分ける練習をする。